

2019年10月4日  
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平  
担当ワーキンググループ主査 小椋 健司

パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト  
(開発調査型技術協力)  
フィージビリティスタディ/スコーピング案に対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2019年9月13日(金) 14:00～16:22
- ・場所：JICA 本部 (1階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、小椋委員、掛川委員、谷本委員
- ・議題：パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト(開発調査型技術協力)に係るフィージビリティスタディ/スコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
  - 1) 【EIA】パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト FSSC 案
  - 2) 【MPDFR 案への助言対応表】パラグアイ国ヤシレタダム湖隣接地域総合開発調査プロジェクト
  - 3) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第106回委員会)

- ・日時：2019年10月4日(金) 14:00～17:16
- ・場所：JICA 本部(1階 111・112 連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **社会配慮**

1. 貧困対策の観点から、今後の調査を踏まえ、ヤシレタダム建設に伴う再定住地である Atinguy 集落における、用地取得対象の住民に対する生計または生活支援策をできるだけ具体的に DFR で記述すること。
2. 用地取得に際し、農作物に影響が生じる場合は農作物補償を行うように提案として DFR に記述すること。
3. 用地取得に際し、公正価格の内容を確認すること。出来る限り補償は再取得価格に基づいて行われるように提案として DFR に記述すること。
4. 用地取得前の補償金支払いを提案として DFR に記述すること。
5. 調査結果からは農地内で受益者が養殖池を設け灌漑用水を利用することが想定される。養殖実施に関する将来の可能性、および、灌漑用水を養殖に利用する際の条件について DFR で整理すること。

以上